

## 桐生市学校規模等適正化

## 梅田中学校区検討委員会だより

第1号

桐生市教育委員会では、児童生徒が減少し、小中学校の小規模化が進行する中、より良い教育環境の構築と質の高い学校教育を実現するため、将来を見据えた学校規模及び学校配置の適正化が必要であると考えております。

このため、令和5年3月に策定した「桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」に基づき、市内の9つの中学校区に検討委員会を設置しました。

今後、検討委員会の協議内容について、保護者や地域住民の皆様にお知らせするため、『検討委員会だより』を随時発行いたします。

なお、教育委員会では、学校規模や学校配置の適正化について、学校Aと学校Bを統合するといったような決定は行っておりません。学校規模等の適正化の方向性については、各検討委員会においてご協議の上、決定していただくことになります。

## &lt;梅田中学校区&gt;

基本方針で定める検討開始基準に、梅田中学校区の梅田南小学校、梅田中学校が該当しているため、令和5年度から梅田中学校区に検討委員会を設置し、学校規模等適正化の検討を始めました。

この基本方針に基づき、将来の望ましい学校規模・学級規模となるよう、保護者や地域住民の代表の皆様と協議を始めました。

## 第1回 梅田中学校区検討委員会の協議内容

令和6年2月13日（火）午後1時30分から、梅田中学校において、第1回桐生市学校規模等適正化梅田中学校区検討委員会を行いました。

## &lt;議題&gt;

- ・学校適正配置の方向性の決定に向けた今後の進め方について

## &lt;今回決定した事項&gt;

## ■委員長・副委員長の選出■ [敬称略]

- 委員長 小島 登（梅田町自治会連合会会長）
- 副委員長 大根 理恵（梅田南小PTA会長）



## &lt;説明した事項&gt;

## ■桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針の概要■

- 望ましい学校規模：[小学校]12学級以上（1学年2学級以上） [中学校]9学級以上（1学年3学級以上）
- 望ましい学級規模：[小学校]1・2学年30人以下、3～6学年35人以下  
[中学校]1～3学年35人以下
- 望ましい通学時間：[小学校・中学校]通学手段を問わず、30分以内
- 各中学校区の児童生徒数の現状と見込み  
(※ホームページに掲載した、資料4「児童生徒数・学級数一覧」、資料5「児童生徒数・学級数の見込み」をご確認ください。)

## ■望ましい学校規模・学級規模の目安、協議の期限（目安）■

- 小中学校における「望ましい学校規模・学級規模」の目安を示しました。
- 中学校区検討委員会ごとに、将来を見据えた学校規模・学校配置の適正化について、令和7年3月31日を目安として、一定の方向性を決定していただきます。  
(※ホームページに掲載した、資料6「学校適正配置の方向性の決定に向けた今後の進め方について」をご確認ください。)

【裏面に続く】

## <主な意見>

子供たちには、小規模な学校であっても、統合して大規模な学校になっても、きちんと育ててほしいと思っており、子供たちには同じような教育を受けさせてあげないと、かわいそうであると思う。

児童生徒数が少ないと、学級数が減少し、それに伴い教職員の数も少なくなっているが、質の良い教育を行うためには、ある程度の教職員集団が必要であると思う。

子供の数の違いによる良さや課題について意見を出し合い、梅田の子供たちにとって、どういった教育や環境が良いのかについて協議し、より良い方向性を出したいと思う。

子供たちのために、また、梅田のためにも、将来を見据え、しっかりと協議したいと思う。

もし統合するにしても、梅田地域の場合、距離が遠く、危ない通学路もあるので、子供たちが、安全に安心して登下校できるような環境づくりを第一条件にしてほしいと思う。

学校でいろいろな子供と接することができる環境を整えることが重要であると思う。6年後の小学校1年生は、今の半分以下になる見込みなので、ますます他の子供と接する機会も少なくなってしまいます。できるだけ早く、いろいろな子供と接することのできる環境を作してほしいと思う。

小中学生や未就学児童の保護者といった若い人達の意見を最優先に考え、若い人達が納得できる場所に落ち着けば良いと思う。

また、学校は、避難所や、スポーツを行う場所としての機能があるということについても、配慮してもらいたいと思う。

## <主な質問>

複式学級とは、どのようなものか。

## <教育委員会の回答>

複式学級とは、複数の学年の児童で編成する学級のことで、1人の担任が、異なる学年の児童（例：1年生と2年生）を1つの教室で教えるものです。小学校1年生を含む場合は8名以下、小学校1年生を含まない場合は16名以下になると複式学級を編成することになります。

※その他、「望ましい通学時間の解決方法がポイントになる」、「少人数でも良い教育はできると思うが、部活動などいろいろな面で弊害があるように感じている」などの意見等がありました。  
(※意見や質問等の詳細については、ホームページに掲載した議事録をご覧ください。)

## 梅田中学校区検討委員会委員

令和6年2月13日現在

委員は、次のとおりです。(全9名)

No.	氏名	役職等	区分
1	大根 理恵	桐生市立梅田南小学校PTA会長	保護者の代表者
2	後藤 学	桐生市立梅田中学校PTA会長	
3	窪田 樹	たかぞのこども園保護者会会長	
4	小島 登	梅田町自治会連合会会長	住民自治組織の代表者
5	小島 隆	梅田町自治会連合会副会長	学校評議員の代表者
6	間中 一枝	梅田婦人会会長	
7	大澤 貞雄	梅田地区青少年愛育運動協議会会長	青少年関係団体の代表者
8	齊藤 好子	桐生市立梅田南小学校校長	学校長
9	加藤 秀幸	桐生市立梅田中学校校長	

(敬称略)

## ●お問い合わせ●

桐生市教育委員会事務局 教育環境課 教育未来係

住所 桐生市織姫町1番1号

電話 0277-46-1111 (内線685、686)

ファクシミリ 0277-46-1109

e-mail [kvoikukankyo@city.kiryu.lg.jp](mailto:kvoikukankyo@city.kiryu.lg.jp)

<https://www.city.kiryu.lg.jp/kosodate/gakko/1022484/index.html>

